

## ディスコグラフィー掲載

### ディスコグラフィー【2019No.142】(HP 掲載)

分類：CD

作曲家：フアン・バウティスタ・ホセ・カバニーリエス他

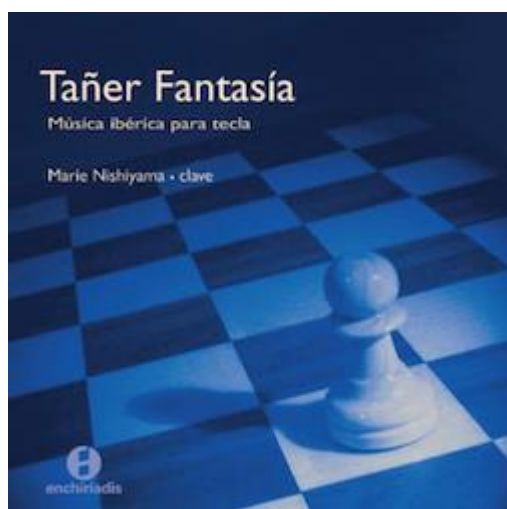
曲名：ガリャルダス他

演奏：西山まりえ

発売：OMF

No.：EN-2007

概要：



西山まりえの【**Tañer Fantasía—La Música Ibérica para Tecla**】というタイトルのCDです。

OMFのサイトの紹介記事を引用して転載します。

「—スペイン人よりもスペイン人らしい演奏（リトゥモ誌）—

西山まりえのデビューソロアルバム「見果てぬ夢の先」のスペイン“enchiriadis”盤。

・ Cookie & Bear (C&B 00003) 「見果てぬ夢の先 —スペイン・チェンバロ音楽—」

・ LIVE NOTES (WWCP-7124) 「見果てぬ夢の先 —スペイン・チェンバロ音楽—」

・ enchiriadis (EN-2007) 「**Tañer Fantasía—La Música Ibérica para Tecla**」の3つのバリエーションが存在する。

#### ■演奏

西山まりえ：チェンバロ&ヴァーヂナル

#### ■収録曲

1 ガリャルダス フアン・バウティスタ・ホセ・カバニーリエス

Gallardas: Joan Baptista Cabanilles

- 2 甘き思い出 エルナンド・デ・カベソン  
Doulce memoriae: Hernando de Cabezón
- 3 第7旋法によるア・ラ・ミ・レのためのティエント 23 フアン・バウティスタ・ホセ・カバニーリェス  
Tiento XXIII por A la mi re de seté tono: Joan Baptista Cabanilles
- 4 第1-2旋法によるファンタシア 10 ルイス・デ・ミラン  
Fantasía X de primer y segundo tono: Luis de Milán
- 5 「騎士の歌」によるディフェレンシアス アントニオ・デ・カベソン  
Diferencias sobre el “Canto del Cavallero”: Antonio de Cabezón
- 6 第4旋法による右手のためのティエント 98 フアン・バウティスタ・ホセ・カバニーリェス  
Tiento XCVIII de mà dretra quarto tono: Joan Baptista Cabanilles
- 7 第2旋法によるティエントとディスクルソ フランシスコ・コレア・デ・アラウホ  
Tiento y discurso de segundo tono: Francisco Correa de Arauxo
- 8 第4旋法によるティエント 7 アントニオ・デ・カベソン  
Tiento VII de cuarto tono: Antonio de Cabezón
- 9 第8旋法による作品「エンサラダ」 セバ스티アン・アギレラ・デ・エレディア  
Obra de octavo tono alto “Ensalada”: Sebastián Aguilera de Heredia
- 10 第1旋法によるティエント・リェーノ ホセ・ヒメーネス  
Tiento lleno de primer tono: José Ximénez
- 11 第3旋法のファンタシア 27 ルイス・デ・ミラン  
Fantasía XXVII de tercero tono: Luis de Milán
- 12 第1旋法による両手のティエント ガブリエル・メナルト  
Tiento de dos manos de primer tono: Gabriel Menalt
- 13 第5-6旋法によるファンタシア 15 ルイス・デ・ミラン  
Fantasía XV de quinto y sexto tono: Luis de Milán
- 14 第8旋法による戦争のティエント アギレラ・デ・エレディア  
Tiento de Batalla de octavo tono: Sebastián Aguilera de Heredia

■レコーディング

基準ピッチ：A=440Hz

録音会場：三鷹市芸術文化センター風のホール

録音日：1998年8月

録音フォーマット：16bit/ 44.1kHz

形態：CD

標題に *La Música Ibérica* とありますので、スペインの音楽と思われます。バッハ以前のチェンバロ曲は、ラモーやクープランなどのフランスバロックとイタリアバロックがお馴染みですが、スペインのチェンバロ曲は初めて聴くものです。

もう少し、民族的な色彩があるのかと思っていましたが、音楽的に洗練されたもので、バッハのチェンバロ曲とは違った魅力があります。ピッチが 440kHz と高いこともあって、華やかな中にもノスタルジックな印象を与えてくれます。音質は、16bit/44.1kHz での録音のせいか、ごく普通です。

以上